

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

76



中洲地区社会福祉協議会は、役員
の任期を2年と定めて会長などの
役職を中洲地区各区の持ち回り
で決めています。私が、中洲地区
の区長さんからの依頼を受け会長
職についた令和4年4月は、まだ
コロナ禍の只中でした。令和2・
3年度任期の前役員さんからは、
「計画したことが、ほとんどでき
なかった。コロナ禍でも実施可能
な事業があれば・・・」との引き
継ぎを受け、「何かできることは
ないだろうか」と考えることから
始まりました。

まず、中洲地区社協発足以来続
いている中心事業「高齢者お楽し
み昼食交流会」は、飲食を伴うた
め中止となるリスクが高く、何か
代わりになる事業はないか検討し
ました。その結果、コロナ禍であ
っても中止にするリスクのない方
法をどうと、事業の趣旨を「高
齢者同士の交流」から「異世代交
流」に重点を移しました。高齢者
と小中学生との交流ができるよう
にしては、と考へ、「高齢者と小
中学生とのお手紙交流」を企画し
ました。手紙等を活用すること
で、直接の交流はできませんが、
たとえ再びコロナ感染が広がって
も中止となるリスクが少ないとい

令和4・5年度中洲地区 社会福祉協議会会長

おとし 河西 敏夫

中洲地区社協発 地域での異世代 交流を進めるきっかけに

高齢者と小中学生との交流事業

中洲小と諏訪南中より手紙とお便りの贈呈



記念写真に納まる参加者

う利点があります。
加えて、小中学生にとっては高
齢者に宛てた手紙などを作る活動
の中で、いつもお世話になってい
る地域に住む高齢者に対する思い
を深められます。高齢者にとつて
も、最近の小中学生の生活の様子
を知りたいに触れることができる
ことで自身の若い頃を思い出して

元気になれるのではないかと
考えました。
事業の実施に当たっては、小中
学校・民生児童委員など各方面か
らの全面的な協力を得て進めるこ
とができました。そして小中学生
からのお手紙を一人暮らしの高齢
者に、無事届けることができました。

南中・中洲小・四賀小との共催事
業としました。四賀地区の民生児
童委員協議会の協力も得て事業を
拡大して実施し、四賀・中洲両地
区の小中学生がそれぞれの地区の
高齢者に向けて手紙や生徒会報を
作成し届けることが出来ました。
中洲地区には、介護保険制度が
始まる前から地域での多職種連携
の試みがなされ、また、小中学校に
おける地域社会との協働や、「とち
の木ひろば」における高齢者のサ
ロン活動なども積極的に行われて
きました。このような中洲地区の
歴史を踏まえ、今回のような事業
を継続し、さらに発展させていく
ことで、若者と高齢者との心の距
離が縮まって異世代交流が少し
でも盛んになればと願っています。

この事業を実施してみても嬉し
かったのは、手紙を受け取った高
齢者から小中学生への返事が意外と
多く、一方通行でない双方向の交
流ができたことです。
2年目の昨年度は、諏訪南中学
校区の小中一貫教育がスタートし
たことに合わせ、学校の理解と協
力を得て、中洲地区社協発として、
四賀・中洲地区三校の「コミュニテ
ィ・スクールの力を借りて、諏訪

次回6月9日掲載予定